【今週の相場展望】

東京株式市場　決算発表シーズン：“次の動きに備える時間”と捉えたい

決算発表（前回）振り返り　※前回発表日2/14時点

前回は、プライム市場は当初減益予想から増益に転じ堅調。スタンダード市場は改善も赤字企業が増加でまだら模様、グロース市場は業績見通しが期初より慎重との印象だった。

多くの企業で通期決算発表を控えているため、買いも売りも動きづらいが第３四半期まで堅調であれば期待値はそれ程下がっていないと思われる。また26/3期の会社計画だが、国内企業における期初の保守的な見通しは恒例と思われ、過度な悲観は避けたいところ。

東証上場企業：2025年3月期会社計画の集計値推移　2024/2/14時点

市場	集計時期	対象企業数	売上高（前期比）	営業損益（前期比）
プライム	2024/5/15時点	944社	+2.8%	▲0.0%
	2025/2/14時点	945社	+4.3%	+3.9%
スタンダード	2024/5/15時点	875社	+3.4%	+2.2%
	2025/2/14時点	884社	+3.7%	+7.3%
グロース	2024/5/15時点	144社	+17.5%	+17.4%
	2025/2/14時点	152社	+14.9%	+10.1%

※　2025年2月14日までに2024年4～12月期（3Q）決算を発表した企業のうち、前期・今期にIFRS適用や決算期の変更、連結決算や単体決算への移行などを行った（行う）企業以外の2025年3月期会社計画データを集計。計画を範囲で発表した企業の場合、下限値を採用。前期比は、対象企業の「2025年3月期計画値の合計／2024年3月期実績の合計」で算出。（出所）QUICKより当社集計

関税問題の織り込み度が注目点

日経平均採用銘柄の下期想定為替レートは1ドル145円台※で、足下とあまり変わらない。26/3期の業績予想を立てにくい状況ではあるものの、為替が企業業績に与えるインパクトは限定的あるいは織り込みつつあるようだ。逆に為替が戻れば心理的にはプラスに。

※予想を発表している企業の平均　出所：QUICK

構成比上位5業種	企業数	平均想定為替レート
電気機器	32社	144.1
小売業	10社	145.5
情報・通信業	12社	－
医薬品	9社	145.3
化学	16社	146.9

※為替レートは円/ドル　出所：QUICKより当社作成

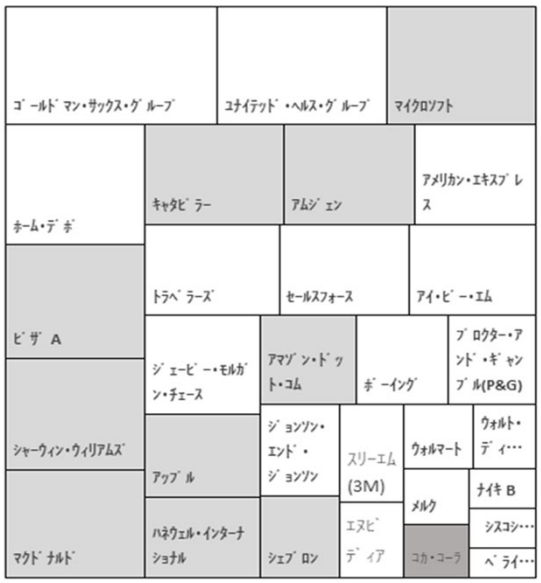
今週の主な決算発表

予定日	主な銘柄
4/28	日立、三菱電機、コマツ、NEC
4/30	東エレク、村田製、JR東日本
5/1	三井物、HOYA、住友商
5/2	伊藤忠、三菱商、丸紅

対象：日経平均採用銘柄より時価総額順　出所：QUICKより当社作成

米国株式市場　決算など確定情報がでた瞬間に動く可能性も

NYダウ採用銘柄と決算発表予定日



出所：QUICKより当社作成

決算発表予定	4/23構成比
⊟4/29	13.4%
シャーウィン・ウィリアムズ	5.1%
ハネウェル・インターナショナル	3.1%
ビザ A	5.2%
⊟4/30	10.4%
キャタピラー	4.6%
マイクロソフト	5.8%
⊟5/1	15.2%
アップル	3.2%
アマゾン・ドット・コム	2.8%
アムジェン	4.3%
マクドナルド	4.9%
⊟5/2	2.1%
シェブロン	2.1%
構成比率計	41.1%

出所：QUICKより当社試算

米国も決算発表シーズン

今週はマイクロソフトやアップル、アマゾンなど主力企業が決算を発表する予定。左の図はNYダウ構成銘柄の構成比率に応じたマッピングで、網掛けの企業が今週決算発表を予定している。

指数への影響力が大きい企業※が多いことが分かり、決算など確定情報が出た瞬間に市場が動く事も想定しておきたい。

※網掛け銘柄合計でNYダウ構成比率41%（出所：QUICKより当社試算）

ただ昨今の相場展開で不安要因はある程度織り込んでいると思われ、下値の堅さが試されよう。

（4/24記、門馬）

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としています。ただし、ご紹介する銘柄等の勧誘を行う場合があります。金融商品等にご投資いただく際には、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失が生じるおそれがありますので、お取引にあたっては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書等をよくお読みいただき、投資の最終決定はご自身の判断でお願いいたします。